

時間 90分

学習のポイント

文章とは、筆者が考えていることを、読者に伝えるというコミュニケーションのための道具です。そして小論文試験とは、その道具をどのように使いこなせるのを見るための試験です。課題文を正しく理解しているか、読者に伝えるために言葉を適正に使えているか、記述は論理的に展開されているかなどが評価の対象となります。試験対策としては、日頃からまとまった分量の論説文・評論文を読む習慣を付けておくことが第一です。その際にわからない言葉があれば、必ず辞書を引いて意味を調べましょう。また、各段落が果たしている役割（～問いを立てる、予想される反論に応える、結論を述べる、など）に注意して読むと、理解が深まるでしょう。そして読んだ文章の主旨について、自分で要約したり、コメントをまとめたほうが有益です。論説文や評論文というのは、この「主旨」を読者に伝えるためのものだからです。文章にまとめる際には、接続詞を有効に使って、論理的に組み立てることを意識してみてください。

【問題】

新書「ロシヤ・フォアキャスト」の著者である野矢直樹氏が、「現代全米地理講座」の著者として知られ、その著書「ロシヤ・フォアキャスト」が、現代全米地理の権威と見られてきた。野矢氏は、その著書「ロシヤ・フォアキャスト」の中で、ロシヤの未来について、以下のように述べている。これを要約せよ。

（中略）

ロシヤは、かつてのソ連時代と同じく、現在も依然として、世界の中心地である。しかし、その中心地としての地位は、かつてのソ連時代とは異なり、今後ますます低くなっていく。これは、ロシヤの地理的位置、人口の増加、そして経済の停滞によるものである。ロシヤは、今後ますます衰退していくであろう。これは、ロシヤの将来にとって、極めて重大な問題である。我々は、ロシヤの将来について、深く考える必要がある。ロシヤは、今後ますます衰退していくであろう。これは、ロシヤの将来にとって、極めて重大な問題である。我々は、ロシヤの将来について、深く考える必要がある。ロシヤは、今後ますます衰退していくであろう。これは、ロシヤの将来にとって、極めて重大な問題である。我々は、ロシヤの将来について、深く考える必要がある。ロシヤは、今後ますます衰退していくであろう。これは、ロシヤの将来にとって、極めて重大な問題である。我々は、ロシヤの将来について、深く考える必要がある。

【解答】

野矢氏は、新書「ロシヤ・フォアキャスト」の中で、ロシヤの未来について述べている。彼は、ロシヤはかつてのソ連時代と同じく、世界の中心地であるが、今後ますます衰退していくと予測している。その理由として、ロシヤの地理的位置、人口の増加、そして経済の停滞を挙げている。彼は、ロシヤの将来について、深く考える必要があると主張している。

（中略）

野矢氏は、ロシヤはかつてのソ連時代と同じく、世界の中心地であるが、今後ますます衰退していくと予測している。その理由として、ロシヤの地理的位置、人口の増加、そして経済の停滞を挙げている。彼は、ロシヤの将来について、深く考える必要があると主張している。

【問題】

新書「ロシヤ・フォアキャスト」の著者である野矢直樹氏が、「現代全米地理講座」の著者として知られ、その著書「ロシヤ・フォアキャスト」が、現代全米地理の権威と見られてきた。野矢氏は、その著書「ロシヤ・フォアキャスト」の中で、ロシヤの未来について、以下のように述べている。これを要約せよ。

（中略）

ロシヤは、かつてのソ連時代と同じく、現在も依然として、世界の中心地である。しかし、その中心地としての地位は、かつてのソ連時代とは異なり、今後ますます低くなっていく。これは、ロシヤの地理的位置、人口の増加、そして経済の停滞によるものである。ロシヤは、今後ますます衰退していくであろう。これは、ロシヤの将来にとって、極めて重大な問題である。我々は、ロシヤの将来について、深く考える必要がある。ロシヤは、今後ますます衰退していくであろう。これは、ロシヤの将来にとって、極めて重大な問題である。我々は、ロシヤの将来について、深く考える必要がある。

【解答】

野矢氏は、新書「ロシヤ・フォアキャスト」の中で、ロシヤの未来について述べている。彼は、ロシヤはかつてのソ連時代と同じく、世界の中心地であるが、今後ますます衰退していくと予測している。その理由として、ロシヤの地理的位置、人口の増加、そして経済の停滞を挙げている。彼は、ロシヤの将来について、深く考える必要があると主張している。

（中略）

野矢氏は、ロシヤはかつてのソ連時代と同じく、世界の中心地であるが、今後ますます衰退していくと予測している。その理由として、ロシヤの地理的位置、人口の増加、そして経済の停滞を挙げている。彼は、ロシヤの将来について、深く考える必要があると主張している。

注1 ロシヤ・フォアキャスト / ロシヤ・フォアキャスト……

注2 1990年代後、ロシヤで文字研究者や言語学者が中心となつて展開した運動。形式面から文法を説明することで、文法の理解のための方法論を確立させた。

注3 ゲグム……第一次世界大戦の後に、米文化が盛んになった。当時の社会不安や意識形態の変化に、あらゆる言葉や構文が形成の過程を定めた。

注4 シクロロスキ……

注5 ヴィクトル・ボリソフ / シクロロスキ……一九九〇年、ボリソフは、ロシヤの言語学者として知られ、その著書「ロシヤ・フォアキャスト」が、現代全米地理の権威と見られてきた。

注6 野矢直樹……

注7 野矢直樹……

注8 野矢直樹……

注9 野矢直樹……

注10 野矢直樹……

（問題2）

文のA、B、C、Dに下線を引いてください。

1 一方、 2 しかし、 3 例えは、 4 もはや

（問題3）

1 日常化 2 不安定化 3 先入見 4 見聞を広める

5 安定した生活 7 知覚の衝撃 8 常識 9 無意識的

6 無意識的 7 知覚の衝撃 8 常識 9 無意識的

10 無意識的